

ふるさと歴史アラカルト

地雷火じらいか

慶応2（1866）年6月に始まった幕府軍と長州藩の戦い「第二次長州出兵（四境戦争）」では、軍艦や大砲、小銃など、両軍がさまざまな乗り物や武器を駆使して戦っています。今回はその中でも少し変わった武器である「地雷火」について紹介します。

地雷と聞くと、地中に埋めて、これを踏んだ兵士や戦車を爆破する近代以降の武器としてのイメージが一般的ですが、古いものの中には敵の接触により爆発するのではなく、離れた場所から敵が通るタイミングに合わせて爆発させるものもありました。

四境戦争の際に使用された、写真の地雷火も同様の仕組みのものとなります。二重構造になっている木の箱の中には、内側に湿らないように油紙などで包んだ火薬を詰めて、外側には粘土が詰められています。そして中央の丸い穴から導火線などを伸ばして、離れた場所から箱を起爆させるのです。この起爆方法についてはいくつかの説があり、長州藩がこのときどのような起

爆方法を使ったかは、研究者の間でも意見が分かれています。

一つ目の説としては、導火線を引っ張って、離れた場所から敵が近づいてきたのを見計らって火をつけるというもの。これは、四境戦争以前から実際に存在が確認されていますが、タイミングや湿気の問題など、実戦での性能は今一つだったようです。

もう一つの説は、中央の穴に信管を装着し、そこから電線を引っ張っておき、敵が近づいてきたと同時に電気を流すことにより爆発させるというものです。これは、導火線よりも効果的なタイミングでの爆発が起こせるため、戦場ではより有効ですが、当時の科学技術的な習熟度と、信管や発電の仕組みなどがはつきりとは分かっています。

いずれにしても、遊撃隊の河瀬安四郎が長州藩政府へ行った報告では「敵兵八余程地雷火二恐縮ノ様子」とあり、地雷火が恐ろしい武器であったことは確かでしょう。

いわくにちようこかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜（祝日の場合はその翌日）

▶地雷火



▶内部構造



岩国市 人口・世帯

人口 138,760人 【前月比 - 134人】 男性 65,728人 女性 73,032人

世帯 66,317世帯 【前月比 - 60世帯】 ※外国人人口を含む（平成28年8月1日現在）

交通事故発生件数 7月分事故件数 41件（277件） 死者 0人（6人） 傷者数 46人（332人）

※高速道路発生分を除く

※（ ）内は平成28年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337